

第8回専門部会を11月22日に開催しました。

第6回ワークショップを開きました。

第6回ワークショップが行われ、整備計画の方向性について熱のこもった議論の結果、整備の方向性が確認されました。

12月6日開催の第9回専門部会から、具体の整備計画の策定作業に入る予定です。

■ 歩行空間の考え方がまとまりました。

車の走行の自由度と歩行空間の充実度の比重、整備計画の方向性について、4回にわたりワークショップで議論を重ねた結果、多くの委員が「歩行空間を増やす」又は「歩行空間量をさらに増やす」ことで方向性がまとまりました。

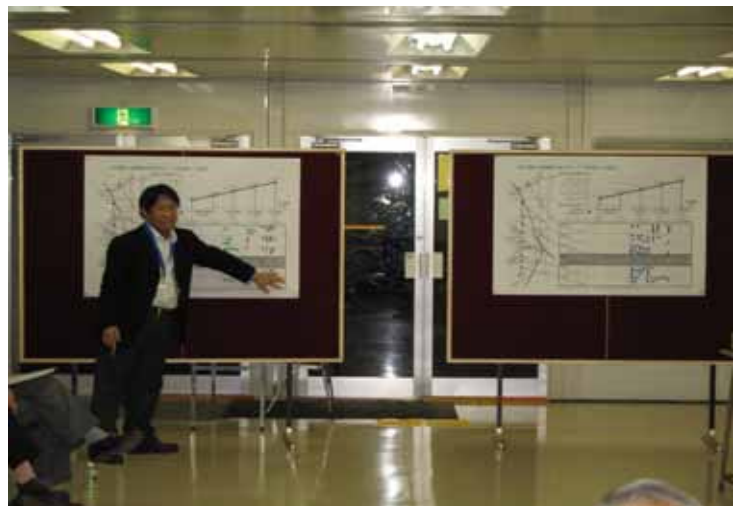
第4回ワークショップから「歩行空間と交通規制の考え方」シートを使い、委員が考えている歩行空間の充実度はどの位なのかを具体的に示して、また、その理由を委員自らが説明を行い、更にワークショップで議論をすることで、委員相互の計画作りに対する共通認識を高めることを行ってきました。

その結果、当初バラツキがあった考え方が回を重ねるごとに集約され、平日はレベル3（歩行空間を増やす）レベル4（歩行空間量をさらに増やす）で考え方の方向性がまとまりました。

12月6日開催の第9回専門部会から、どの区間にどの施策を導入していくか、また、その効果と周囲に与える影響の検証など、具体の整備計画を策定するため、ワークショップ形式で作業を進めていく予定です。

第8回今小路通り歩行者尊重道路専門部会次第

- 1 開会（18：00）
- 2 報告・確認事項
- 3 ワークショップ ～第6回～
 - ア. 整備計画の方向性について
 - ① 「歩行空間と交通規制の考え方シート」にシールを貼る
 - ② 全体会議
 - ③ 方向性についてのまとめ
- 4 本日のまとめ
- 5 その他
 - ア. 第9回専門部会の日程等について
- 6 閉会（20：00）

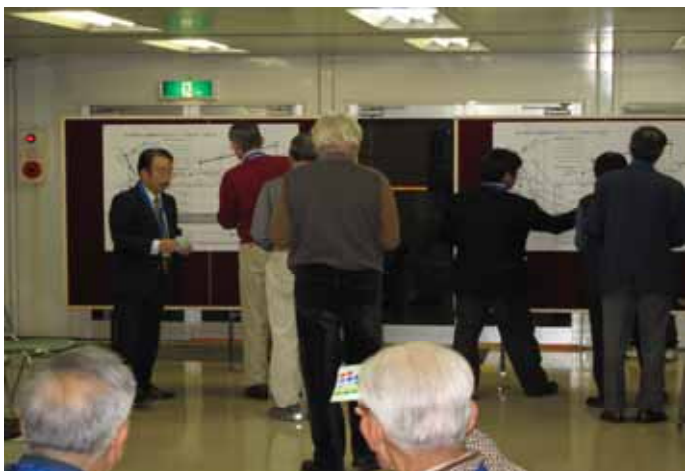


歩行空間と交通規制の考え方シートを説明する坂本委員

■ 「歩行空間と交通規制の考え方」シート への記入と全体会議

整備の方向性を決めるため、4回にわたり「歩行空間と交通規制の考え方」シートに自らの考え方を記入し、各委員がその理由を全体会議やワークショップで発表し、共通認識を高めることを行ってきました。

「歩行空間と交通規制の考え方」シートを見



ると、各区間で「歩行空間を増やす」方向で委員の意見が一致したことが伺えます。生活道路のあり方が問題になっている昨今、今回の専門部会で出た方向性は今後の道路づくりの考え方に大きなインパクトを与えるものです。



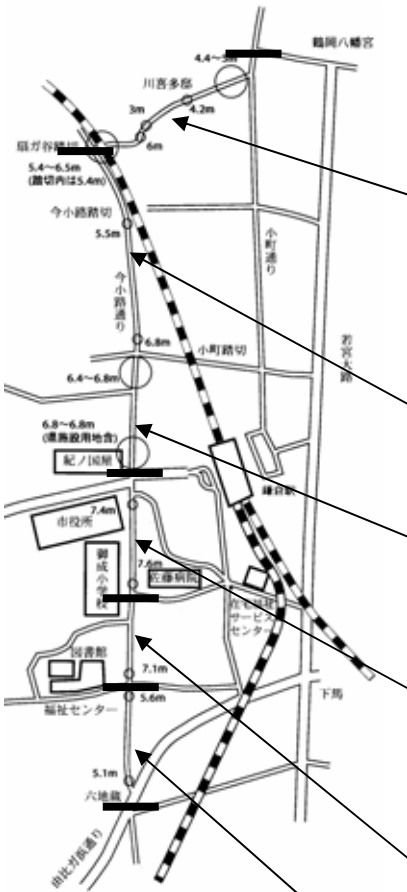
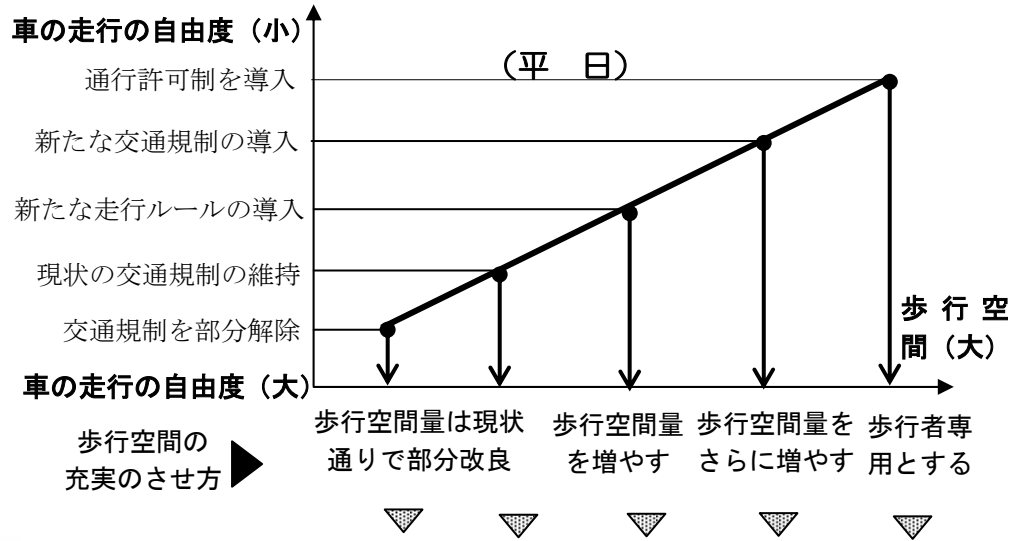
■ 武蔵大路（その一）

鎌倉時代にみえる鎌倉府内（鎌倉市）の大路。鎌倉を中心に武蔵国へ通じる重要な交通路、というのが路名の由来である。

鎌倉から武蔵方面へ通じる鎌倉府外の往来道は「武蔵道」と称して区別された（梅松論）。初見は『吾妻鏡』養和元年（一一八一）九月十六日条で、足利俊綱の首級を持参した桐生六郎が「武蔵大路」から使者をたててきたが、源頼朝は入鎌を許さず、ただちに深沢経由（ついで大仏坂か）で腰越に向かうよう指示したとある。

この大路の道筋には諸説あるが、『吾妻鏡』文永三年（一二六六）七月四日条は、京都に送還される將軍宗尊親王が若宮大路沿いの「幕府の北門を出て赤橋（八幡宮太鼓橋）を西に行き、武蔵大路”をへて佐介の北条時盛の館に向った」とのべる。

■ 歩行空間と交通規制の考え方



区 間	回数	レベル①	レベル②	レベル③	レベル④	レベル⑤
区間1 鉄の井～ 寿福寺	1	1	3	3	12	
	2		1	2	3	8
	3		1	5	10	1
	4			2	10	
区間2 寿福寺～ 小町踏切前	1	1	3	7	7	
	2		1	1	7	6
	3			9	5	
	4			8	5	
区間3 小町踏切前～ 駅西口交差点	1	1	8	5	5	
	2		4	1	4	2
	3		1	10	2	
	4			13	2	
区間4 駅西口交差点 ～御成小学校南		1 2 0 (同区間は平成18年10月より 工事着手につき計画を踏襲します。)				
区間5 御成小学校南 ～御成中学校 入口	1	1	9	3	5	
	2		3	1	4	3
	3		1	10	3	
	4			11	2	
区間6 御成中校入口 ～六地蔵	1	2	5	4	7	
	2		1	1	4	8
	3			3	10	
	4			7	7	

- 第1回記入 10月18日(第6回部会)
- 第2回記入 11月8日(第7回部会)
- 第3回記入 11月22日(第8回部会)
- 第4回記入 11月22日(第8回部会)

歩行者尊重道路の整備はソフト施策中心で

整備の前提条件を第5号の専門部会ニュースの中でお知らせしましたが、整備計画はソフト施策が中心になります。

ハード施策は、都市計画決定や用地買収を中心になります。ハード施策は、都市計画決定や用地買収を伴うなど計画完了まで長期間を要します。また、費用面でも多大な費用がかかり、既成市街地の場合、沿線住民の理解を得ることが大変難しいことなどから、今直面している歩行者の安全性を確保するためには、整備を短期間に行う必要があるためです。

ハード・ソフト施策比較表

分類	短期性	柔軟性	道路利用者の利便性	費用面	今小路通りでの適応性
ハード施策	× ・新たな都市計画決定、用地買収などに長期の時間を要す。	× ・恒常的な施設整備であり、柔軟性はない。	○ ・道路構造令に適合し、車両、歩行者とも安全が図られる。	× ・長期にわたり土地所有者との交渉や用地取得に多大な費用がかかる。	・既成市街地の大規模な整備は課題が多く、費用、時間がかかる上、沿線住民の理解を得ることが難しい。
ソフト施策	○ ・都市計画決定、用地買収等が不要のため短期間に実施可能。	○ ・現状道路に即した整備が可能。	△ ・車両に対しては、道路幅員、速度規制等により車両の自由性を制約する。 ・歩行者の安全性の確保が図られる。	○ 用地買収や大幅な施設整備を伴わない。	・公共交通、通過車両への影響も少なく、現状の安全対策が不十分な歩行者の安全対策も可能となり、短期間に実施が可能。

編集後記

今小路通りの整備の方向性が決まりました。

12月6日の第9回専門部会からは、いよいよ具体の施策の検討に入ります。

「歩く」ことを提唱している鎌倉ですが、現実には歩道も少なく、歩く環境に適しているとは言いがたいのが実情です。

市民主体の今回の取り組みが、多くの方に理解され、「くろま社会」を見直す考えの切掛になればと思います。

鎌倉の保全是緑だけではなく、静かな生活居住環境を守ることもあると考えます。

人と車の関係を見直す、このような取り組みが各地域で始まり、街の中も住みやすい環境が保全されることにより、緑と街が一体となり「世界遺産登録」に相応しい街になると思います。

専門部会への意見募集

「今小路通り歩行者尊重道路専門部会」では、歩行者尊重道路整備計画について皆様からのご意見を募集しています。

「今小路通り歩行者尊重道路専門部会」事務局（交通政策課）までご意見をお寄せください。

TEL:0467-23-3000（内線 2511）

FAX:0467-23-8520

E-mail koutsu@city.kamakura.kanagawa.jp

